

平成28年度 第1回 全校研究会 4月27日

「渡り廊下の先へ」から6年間の交流及び共同学習

～エピソードから見える姿～

今年度の研究のスタートとして、開校以来本校が6年間進めてきた、スクールパートナーである京都八幡高等学校との交流及び共同学習について、下記の2つのテーマをもとに全校で改めて確認しました。

テーマ① 本校と京都八幡高等学校の「交流」の6年間のあゆみを知る

毎日新聞京都版 (H25年) 『渡り廊下の先にルポ・八幡支援学校』

テーマ② 「授業づくり」に生かす視点 ～子どもの育ちから考える。

全校研修会をとおして、教員からは「交流及び共同学習をとおした児童生徒の育ちや学び」、「人とのかかわりの中で見えたもの」、「今後の授業づくり」について下記のような感想や意見などがあがりました。今年度、文部科学省指定研究 平成28年度特別支援教育に関する実践研究充実事業「特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究」文科省実践研究充実事業を進めていくにあたり、今後の方向性なども全校で確認する良い機会となりました。

今後の展望・わが校(なつはしい姿)

- 一緒に遊んだり、要求を伝えられたりする人を認めていってほしい。
- 「いつまでも」でも「種々」でもよい。
- 卒業後、社会で楽しく暮らすように生きてほしい。
- 高校生が相手だからこそやる気もある中身が楽しい。
- 共生社会がごくあたりまえの社会になってほしい。
- 地域の学校で一般学級の子と並ぶとの関係が上手くいかなかった生徒達も、本校での経験がそれを乗り越えられるように。また、共生社会の一員として自信を持って生きていけたらと思います。
- 学校で完結せずに地域社会へも繋がってほしいなと思います。
- 生徒には、勇力を置いて生きてほしい。
- 経験不足の生徒に色々な経験をさせてほしい。そのうちの一つが交流の場である近隣高校生とからできることがある。周りの人と上手に生きられる人になってほしいと思います。
- 人に興味を持った時、積極的に関わることで、自らの成長へ少しだけ自信を持ってほしい。

人とのかかわりの中での見えた児童生徒の様子や成長

- すぐに見られる成長でなくても、いつの間にか、こんなに成長したと感じることもあります。
- 本校と京都八幡高等学校の生徒がお互いに育ち合う視点が深まってきた。
- 高校生が来ることを楽しみにしている様子を嬉しく思う。
- ごく自然な、人と人としての関わりが見られる。
- 互いに、とっても良い経験だと思う。
- 高校生が考えて工夫して交流に取り組んでいる姿に驚きました。高校生の学びもきめて、双方に意味のあるものだと思います。
- 最初は高校生との交流を苦手としていた児童も、「高校生のお姉さんはいづくるの?」と尋ねるようになり、変化していく姿に驚きました。
- 子ども同士だからわかり合えることもあるんだと感じた。
- 京都八幡高等学校南キャンパスの不登校生徒が、登校して、交流を行ったときに、小学部の児童と関わる中で、人と関わることに自信が持てるようになったという話を聞き、互いに色々な力をつけていると思った。

こんな様子や成長を知りたい・伝えたい

- 他学部の交流の様子が見られてよかった。
- エピソード記録で色々伝えていきたい。
- 地域の高校生にも支援学校のことをたくさん知ってもらえるように発信していければと思いました。

今後の授業づくり等のヒントに

- 人が好き、なんだか楽しいのかかわりを受け入れてみようという気持ちを持たせたい。
- 交流の場を意図的につくりあげていこうと思います。
- 人と関われる経験を段階的に、実感に応じて、積み上げていきたい。
- 主体性交流など、取り組み方を考えていきたい。
- 発想、共感→理解⇒自然な姿へという道筋を作っている。
- 学校というミニ社会の中で、子どもたちがいつまでものびのびと生きていけるように、楽しい時間を過ごすための工夫が必要なのかな、と考えていきたいと思います。
- 児童生徒の姿態に応じて、それぞれの交流のねらいをおさえることも大切。
- 学校に就任して、共生社会という言葉はまだハードルの高いものである。彼ら自身も持っている力を伸ばし、人との関係を豊かにしていくプロセスの中に、クラス単位→学年単位→高校生との交流→社会へと繋がっていくと日々取り組んでいきたいと思います。
- 生徒同士自分たちで関われるよう工夫を手立ても考えていきたい。
- 交流の場に取り組める良い機会となりました。

生徒同士だけではなく、指導者も、保護者も、地域も全て繋がっていきたく改めて思いました。

12年間つけてきた卒業後の生活で生かしていけるように日々の実践を大切に

- 内面の育ち
- 日々の授業
- 内面の育ちにしっかりと目を付けて京都八幡高等学校と本校の双方に発信したい。
- 日々の取組をどう交流に繋げていけるかを考えていきたい。
- 自校の学習から共生社会を構築していきたい。
- 小学部では、日常生活の力も重視する必要がある。安心できる教師との関係を軸としながら、輪に溶けようか、人に役立つ力を身につけてほしい。内面の育ちを見たい。
- 日頃から好きな活動を広げる。色々な人と好きな活動をする、楽しい思いを共有したり、共に盛り上げる経験を広げる。
- 保護室で関わる姿でも、日々成長を感じます。先生方の指導の繰り返しがもたらしている、その場が交流の場であるのだと思います。